

## 学生発表要旨①

皆さんこんにちは。

僕は、自分が課題設定したプロジェクトとインターンシップとグローバル GAP について話したいと思います。

僕の卒論として設定した課題は、隔離床栽培を用いた給液濃度の違いによる高糖度トマトの増収技術の検討を課題として設定しました。

課題設定の理由としましては、高知市では塩分の多い土で高糖度トマトを作っている。塩分濃度が高いと水の吸収が悪くなり、果実の糖度が上がると考えられている。現場では、灌水量を制限する隔離床栽培も導入されている。

そこで、隔離床栽培を用いて、灌水量を減らすとともに養液濃度を高くすることで、より安定的に高糖度トマトを栽培する方法を検討する。

次は、インターンシップについて話したいと思います。

インターンシップは、5月と9月の2回実施され5月の一回目は農業生産法人、9月の二回目は農業関連企業に3日間勉強をしにいきます。僕は、吉本農産と高知農業高校に行ってきました。吉本農産では、土の販売とナスやピーマン、甘長とうがらしを栽培しています。そこで、農業を仕事という観点で体験させてもらいました。高知農業高校では、実習助手という職業に興味があり農業高校の生徒の実習の準備や実習の手伝いを体験し実習助手についてさらに興味がわきました。

さらに、高知農大は西日本農大初のグローバル GAP を取得しています。グローバル GAP とは、グローバル GAP 認証を受けることで「安全で品質の良い食品・非食品の農作物であると世界的に認められる」こととなります。9月に GAP 認証のための審査が実施され結果、見事に GAP を取得しました。

僕は、農業高校出身で高校時代にも実習を行ってきましたが、農大の実習では播種から収穫、出荷までより実践的な農業体験ができ農業の流れを学ぶことができます。是非農業大学校に来てください。